
第7回 恵那市リニア まちづくり構想市民委員会

平成26年1月28日(火)

1. 主な変更箇所の抜粋

序章

序章（P 1） ※項目の分離

(2) 目標年次

本構想の目標年次は、リニア岐阜県駅が開業する2027年（平成39年）とし、次期総合計画（平成28年～）に内容を反映させることで、構想の実現化を図っていきます。また、2028年（平成40年）以降についても、継続的に必要となる施策の推進を図ります。

(3) 上位計画等との整合、県・周辺市町村との連携

本構想は、次期総合計画（平成28年～）につながるものと位置づけており、リニアを活用したまちづくりの推進にあたっては、恵那市のみならず、周辺市町村や岐阜県など、他の行政機関と連携した取組みが必要となります。そのため、岐阜県が進めているリニア活用戦略などの上位計画と整合を図っているほか、関係各機関との連携を重視しながら進めていくことを視野に入れた内容となっています。

序章

序章（P 1） ※項目の追加

(4) 構想の構成

本構想は、以下の内容で構成しています。



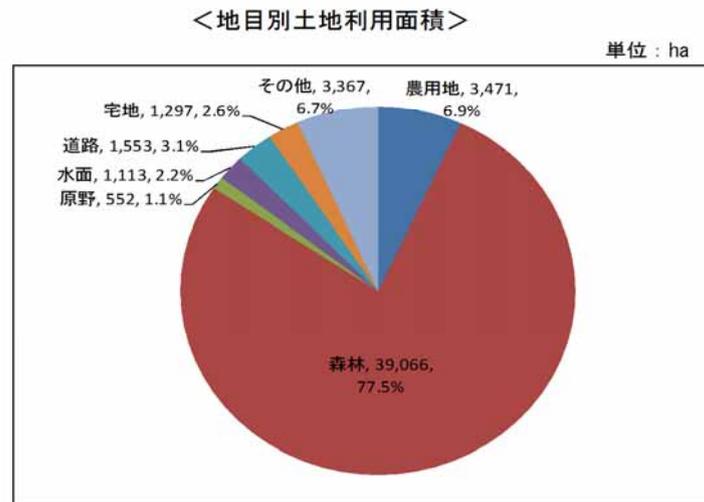
1.現状分析

1-2 土地利用の状況

(2) 土地利用現況 (P22) ※数値の変更

①土地利用現況

・恵那市全域の地目別面積は、市域面積 50,419ha のうち森林が 77.5%、農用地が 6.9%、宅地は 2.6%となっています。



資料：国土利用計画

2. リニア開業のインパクトと対応

2.リニア開業のインパクトと対応

2-2 リニア開業がもたらす効果・影響

(1) リニア開業による効果 (P43) ※文章の追加

⑧中部車両基地（工場）の設置による経済効果

中部車両基地（工場）の設置に伴い、従業員およびその家族の転入がまとまった規模で見込まれることから、人口の増加に伴い、新たな住環境の整備や地域内での消費額増加が期待されます。

3-1. 目指すべき将来像

※キャッチフレーズの確定

リニアでわくわく ちょうど えーな

暮らしのびのび、遊びウキウキ、仕事すいすい、未来のふるさとづくり。

ちょうどいいまち「恵那」・・・

(P50)

古きよき歴史が残り、自然豊かなまち。

移りゆく四季を満喫でき、観光資源、食や文化、自然環境に恵まれ、アクセスも便利。

そしてなにより、人がおおらかで、やさしい。

不便すぎず、それでいて都市化していない「ちょうどいい居心地」の「恵那」。

リニア時代へのわくわく感・・・

豊かな自然、美しい風景ときれいな空気、新鮮で安全な食材、健康で安心な暮らしのびのび。

日帰りで東京へ。観光資源に恵まれたまちは、行く人来る人楽しみ方いろいろ、心はウキウキ。

日本の真ん中、のどかな環境、しっかり整備されたネット環境と便利な立地で、仕事もすいすい。

住む人、訪れる人にとってもわくわくできるまち「恵那」が生まれます。

未来のふるさとづくり・・・

先人から受け継いだ温かい人情、のどかな自然、豊かな食を生かし、

私たちのふるさと「恵那」を、楽しみながらもっともっと磨きをかけて、

心から誇れる日本の新しいふるさとを築いていきます。

3-2. 将来像の実現に向けて

(P51)

※キャッチフレーズと取組方針の考え方の追加



3-2. 将来像の実現に向けて ※分野別の取組方針を体系化 (分野間の融合も整理)

目指すべき将来像の実現に向けた分野別取組方針の体系図



3-2. 将来像の実現に向けて (P53)

※分野別取組方針の地域への展開イメージの追加

	観光振興・まちづくり	産業振興・地域振興	地域づくりを支える基盤整備
北部地域 (中野方、飯地、笠置)  	<ul style="list-style-type: none"> 笠置山、飯地高原等の資源を生かした観光振興の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 飯折棚田等の資源を生かし、「農業体験」や「田舎体験」を通じた産業振興の展開 ゆずや栗等の農産物を生かした6次産業化などによる産業振興の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地地域との多重性や安全性の確保に向けた交通基盤の展開
融合のイメージ 農業体験と地域づくりの連携 ←融合→ 滞在型農業体験の展開			
市街地地域 (大井、長島、武並、三郷、東野)  	<ul style="list-style-type: none"> 中山道、恵那峡等の資源を生かした観光振興の展開 観光資源と地域活動の融合による恵那らしい観光振興の展開 リニア岐阜駅との近接性を生かした住環境の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 中部車両基地（工場）に隣接した地域特性を生かした関連企業の誘致・推進の展開 地域の歴史・文化と連携した商店街活性化の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 恵那ICや国道19号周辺の交通集中に対応した交通基盤の展開 リニア岐阜駅との円滑なアクセス性を提供できる交通基盤の展開
融合のイメージ 定住促進としての住宅供給 ←融合→ リニア効果を誘致する住宅供給			
南部地域 (岩村、山岡、明智、上矢作、串原)  	<ul style="list-style-type: none"> 岩村の町並み、日本大正村、ささゆりの湯等の資源を生かした観光振興の展開 祭り等の各地域に残る昔ながらの地域活動と連携した観光振興の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 農村景観日本一等の資源や田舎暮らしならではの温かさを生かし、「農業体験」や「田舎体験」を通じた産業振興の展開 寒天等の農産物のブランド力の強化による産業振興の展開 	<ul style="list-style-type: none"> リニア岐阜駅と観光資源の連達性を提供できる交通基盤の展開 市街地地域との多重性や安全性の確保に向けた交通基盤の展開
融合のイメージ 観光商品への展開 ←融合→ 農産物のブランド化			

4-1.観光に関すること

方針1：既存の観光資源（歴史・文化・風土・自然）を活用した魅力ある観光地づくりを行います

(P55) ■■

※中山道の修景整備等による観光振興の記述を追記

1) 観光地の整備

恵那峡、中山道、日本大正村、岩村城跡・城下町、坂折棚田など、豊富な観光資源について、観光地の整備状況や来客状況などそれぞれの現状を踏まえたうえで、来訪者をおもてなしする際に必要と考える整備を進めていきます。

具体的には、恵那峡再整備構想による賑わいの再生や、中山道を修景整備し、古道を歩く楽しみを増加させるなど訪れてみたくなる観光地づくりに取り組みます

4-1.観光に関すること

方針1：既存の観光資源（歴史・文化・風土・自然）を活用した魅力ある観光地づくりを行います

(P55) ■■

※文言の修正

3) 観光名所の発掘

観光客の注目を集めるためには、「名所」となる場所が必要です。市内には豊富な観光資源が存在すると同時に、地元では気づくことができない美しい景観スポットや地域資源も存在します。これらの資源を活用するため、新たな観光名所の発掘を進めます。

4-1. 観光に関すること

方針3：市内各所や他地域との連携により訪れたい観光地を提案します

(P58) ■■

※長野県や豊田市との連携強化を視野に入れた記述を追記

13) 広域観光の推進

リニアで訪れる観光客は、行政区域に関係なく時間や距離、その場所の魅力に相応した観光を楽しむものと考えられます。恵那市においても隣接する恵那峡ワンダーランドや博石館などと連携した観光が利用されており、今後は岐阜県や東濃地域全体での観光の提案が必要となります。そのため広域的な地域連携の検討に向けた組織の構築や観光ツアーの実施、観光PR等について、中津川市をはじめ東濃地域や飛騨地域さらには木曽・豊田地域などとの自治体と協議を行いながら検討を進めます。

4-2. 食に関すること

※食に関する人材の重要性を追記

(1) 取組みの考え方

(P61) ■■

観光客にとって、食は今まで以上に重要な要素となっています。美味しい食は訪れる人の満足度を向上し、再び訪れる可能性を高めます。

地域で採れた食材を地域の伝統的な料理法で味わうことは、その土地の観光の醍醐味となります。

そのような中、市内では、米や野菜をはじめ、栗、寒天、自然薯など多くの素材に恵まれており、これらの食材を生かした観光産業の振興を図ることが望まれています。

また、それらの食材は、地域の人々の手によって料理として提供されるほか、新たな特産品として展開することにより、来訪者が何度も訪れたい取組みへとつながっていきます。

来訪者にとって魅力のある「食材」、郷土の温もりや懐かしさが感じられる「食」をPRするとともに、食文化として後世に継承していくことも併せて求められています。

4-3.まちづくりに関すること

※まちづくりと教育に関する考え方を追記

(1) 取組みの考え方

(P64) ■■

リニアが開通し、多くの人々が行き来するようになると、改めて恵那の魅力はここにしか無い歴史や文化、そして住む人にこそあると感じられます。

この地域の魅力は、代々にここに暮らした人々のお陰であるとも言えます。

そしてこれからも、ここを訪れる観光客が美しい景観や地域の文化などに触れ、魅力的なまちであると実感できるような地域づくりを引き続き推進していく必要があります。

そのためには、地域の歴史や文化の保全・継承などを通し、次世代を担う子どもたちが地域の歴史や文化を学べる環境を創出するとともに、地域住民との協働によるまちの活性化や地域振興に資する取組みを行っていくことが必要となります。

また、地域が有する豊かな自然資源や歴史・文化などの地域資源を保全・活用するとともに、地域間交流を図り、来訪者が恵那らしさを体感できるまちづくりが求められています。

4-3.まちづくりに関すること

方針1：誰もがまちづくりを考え、地域活動に参加できるまちを推進します

(P65) ■■

※歴史・文化の推進と教育との係わりに関する記述を追記

6) 地域の歴史・文化の理解の推進

恵那には歴史的に名高い儒学者の佐藤一斎や日本の電力王といわれた福沢桃介など、多くの歴史的な著名人を有していることから、来訪者や次世代を担う地域の子どもたちがその教えを広く学べる場の提供に向け、学習会の開催や歴史文化遺産等のフィールドワークの開催を検討します。

4-4. 移住・定住に関すること

※移住・定住と教育に関する考え方を追記

(1) 取組みの考え方

(P66) 

今後、恵那市においては、急速な高齢化と人口の減少が進むと考えられ、リニア開業の平成39年には、44,000人（平成22年と比較して10,000の減少）になると予測されています。一方で、田舎での暮らしや自然の中で暮らしたいというニーズは高まってきており、今後暮らしや仕事の多様化が進むにつれて、より一層顕著になると考えられます。

また、リニアの工事や完成後の中部車両基地（工場）への通勤者など、今後リニアに関連して移住する人も大幅に増えることが予想できます。

そのような状況の中で、リニア関連企業の就業者など、新たな宅地需要に対応するとともに、恵那市の豊かな自然資源や郷土の特徴等を生かした住環境を保全・創出し、移住したいと思われる魅力的な環境を整備することが必要となっています。

そのためには、田舎暮らしや家庭菜園など、移住者のニーズを踏まえた住宅の供給について検討するとともに、家族で移住した場合も子どもたちが安心して学び・育つ教育環境の充実が求められています。併せて、首都圏や名古屋圏への移動時間の短縮や、都市部とのアクセス利便性をPRするなど、移住・定住者の増加に繋がる取組みが求められています。

5-1. 企業誘致・工業に関すること

※研究・教育施設等の関連施設の誘致に関する考え方を追記

(1) 取組みの考え方

(P70) 

リニアの開業に伴い、人の流れと行動範囲が大きく変わる可能性があります。また、中津川市に建設予定の中部車両基地（工場）とは多くの企業が関連するようになる可能性があります。

また、21世紀に入りIT環境の進展により労働環境も大幅に変化する可能性があります。

そのような状況の中、恵那市においては雇用の場の確保や地域の経済活動の要となる企業の誘致は持続的な課題であり、東京・大阪方面を見据え、「日本の真ん中」に位置する利便性を生かした企業誘致活動を引き続き行っていく必要があります。

また、リニア岐阜県駅と中部車両基地（工場）の立地を視野に入れ、リニア関連企業の誘致を促進するとともに、最先端技術の研究施設やそれらを支える人材の育成に向けた教育機関の誘致などの可能性を高めていく必要があります。これらの新たな企業・機関の進出や進出に伴う雇用の促進を通じた、地元産業の振興に資する取組みが求められている状況にあります。そして、首都圏や名古屋圏へのアクセスの利便性向上を生かし、新たなワークスタイルの構築を目指していくことが新たな居住人口の増加に寄与するものと考えられます。

5-1. 企業誘致・工業に関すること

方針1: 自然災害が少なく、日本の真ん中にあることをPRした企業誘致展開に取り組みます

方針3: 中部車両基地(工場)に隣接した地域の特性を生かした関連企業等の誘致・推進に取り組みます

(P71)

※研究・教育施設等の関連施設の誘致に関する記述を追記

2) 企業等の誘致に向けた適地情報の収集

リニア開業に向けた企業等の立地需要に対応するため、インターチェンジからの近接性、耐災害性等の特性を踏まえたうえで、豊かな自然の保全に配慮し、企業や関連機関の誘致を推進するための適地調査を進めます。

3) 企業誘致等の推進

リニア開業に向けた立地需要を新たな雇用創出につなげるため、積極的な企業等の誘致を進めます。企業等の誘致にあたっては、進出可能性調査、企業立地セミナー等による情報提供の充実など、企業や関連機関のニーズを立地に結びつけるための取組みを進めます。

5-1. 企業誘致・工業に関すること

方針2: リニアを生かした地元産業の活性化と宅地の確保を進めます

(P72)

※宅地の確保に関する記述を産業振興分野に再掲

6) 宅地の供給(再掲)

リニア関連企業の就業者の定住に必要な宅地需要を見据え、リニア岐阜県駅へのアクセス性を考慮した住宅地開発の適地調査を実施します。また可能性のある適地においては、土地区画整理事業や土地開発公社による開発等の事業手法を検討します。

7) 宅地開発・転出抑制(再掲)

市内の居住者に対しては、世帯分離やUターンなどの宅地需要に対応するため、開発指導要綱の見直しや民間開発の誘導などによる新たな住宅地の供給を進めます。

また、恵那市の奨学金の利用者に対し、償還金の一部を助成し、転出の抑制を図ります。

5-3. 農林業に関すること

方針2：農産物等の価値を上げるとともにブランド力を強化します

(P78) ■■

※道の駅に関する記述を追記

6) 恵那らしい「食」の提供に向けた空間の創出

栗、寒天、米、自然薯などの特産物を新鮮な状態で来訪者に提供できるように、農産物等の加工販売施設の整備について検討を進めます。また新たな食品生産加工施設の可能性を調査研究します。また、「おばあちゃん市・山岡」をはじめとする道の駅については、地域の生産物を身近に提供できる施設として活用できることから、他の地域においても新たな立地の可能性について検討を進めます。

5-3. 農林業に関すること

方針2：農産物等の価値を上げるとともにブランド力を強化します

(P79) ■■

※ 産業としての『食』に関する記述を産業振興分野に再掲

1 1) 恵那の食文化、歴史の活用（再掲）

この地域で昔から食されている料理を再認識し、食文化として調査研究します。また時代や世代により食された料理を再現するなどして恵那の新たなグルメとしてPRします。

1 2) 食の伝承と体験の推進（再掲）

この地域でしか食べられていない食材や料理方法のほか、この地域に由来がある伝統的な料理など、恵那特有の料理を後世に残していくため、食の伝承に関する支援や料理体験・料理教室などの取組みを進めます。

5-4. 資源・ブランドによる地域振興に関すること

方針1：地域資源を再発見するとともに、恵那ブランドの強化と地域振興を推進します (P81,82)

※ 産業としての『地域振興』に関する記述を産業振興分野に再掲

2) ボランティアの育成支援 (再掲)

各観光地を訪れた来訪者に、その歴史、文化や伝統にまつわる話までも知ってもらえるように、観光ガイドの研修や地域で取り組む自然保全活動など地域全体で来訪者をおもてなしできる環境整備に引き続き取り組みます。

3) 美しい景色景観の保全と都市景観の創造 (再掲)

坂折棚田や農村景観日本一などの美しい景色景観について、その景観を維持するための住民活動に対する支援を検討します。また、恵那市の玄関口である恵那駅周辺の都市景観や中山道沿いの地域については、魅力ある景観を保全・創造するため、地域協定等の検討を行います。

4) 地域間の交流の推進 (再掲)

恵那市はそれぞれの地域が特有の資源を有しており、それぞれのまちづくり活動を進めていることから、一体的な連携強化による観光の相乗効果を目指し、地域間の交流を引き続き進めます。

5) 地域の歴史・文化の理解の推進 (再掲)

恵那には歴史的に名高い儒学者の佐藤一斎や日本の電力王といわれた福沢桃介など、多くの歴史的な著名人を有していることから、その教えを広く学べる場の提供に向けた学習会の開催や歴史文化遺産等のフィールドワークの開催を検討します。

5-4. 資源・ブランドによる地域振興に関すること

方針1：地域資源を再発見するとともに、恵那ブランドの強化と地域振興を推進します (P82)

※再生可能エネルギーに関する記述を追記

6) 再生可能エネルギーの可能性の検討

恵那市は、日照時間の長さや豊富な水資源等の自然エネルギー資源に恵まれていることから、各地域が有する自然条件（日照時間の長さ、風の強さ、水量の多さ等）の特性を踏まえながら、地域の自然特性を生かした太陽光発電、風力発電、小水力発電等の再生可能エネルギーの推進に向け、検討を進めます。

6-1. 広域アクセスに関すること

方針1：リニア岐阜県駅、恵那駅や病院などへの円滑な交通手段を確保します

(P84)

※北ルートに関する記述を変更

4) 主要道路の整備促進

リニア岐阜県駅は、中津川駅と恵那駅のほぼ中間付近の美乃坂本駅付近に設置が予定されていることから、中津川市と恵那市の両市街地を結び、併せてリニア岐阜県駅へのアクセスを確保できる北ルートやその他のルートも含めて関係機関との調整のもと利便性の高い道路網の整備を進めます。

6-1. 広域アクセスに関すること

(P85)

4) 主要道路の整備促進

リニア岐阜県駅へのアクセスを確保できる北ルートやその他のルートも含めて関係機関との調整のもと利便性の高い道路網の整備。



6-2.市内アクセスに関すること

※沿道の修景整備に関する記述を変更

(1) 取組みの考え方

(P86)



工事期間も含め、リニア効果を最大限に市内各地域へ波及させるためには、市内の交通網の整備は不可欠となります。

特に市内にある主要な交通拠点である恵那 I C 周辺や正家交差点の渋滞解消、市立恵那病院への短時間での到達、また J R 恵那駅までの円滑な交通アクセスの確保などの課題に取り組む必要があります。

加えて、リニアでの誘客効果を市内に呼び込むため恵那峡周辺道路の修景等についても検討を進める必要があります。

また、南北地域から市街地へ向かう主要な道路は、災害時における多重性を確保するため、土砂崩れ等の被災が懸念される箇所等については、迂回路の確保が必要となります。

6-2.市内アクセスに関すること

方針 1 : リニア岐阜県駅、恵那駅や病院などへの円滑な交通手段を確保します

(P87)



※ P 88 の図面と整合を図るため、『環状道路等』を追記
沿道修景整備の対象となる道路を明記

1) 主要道路の整備促進

リニア開業後は、リニア岐阜県駅を中心とした交通量の増加が予想され、流入・流出交通や通過交通の増加が予想されます。一方で、恵那 I C 周辺や国道 19 号正家交差点周辺における交通集中の改善が課題となっており、新たな流入・流出交通等の想定を踏まえた円滑な市内アクセスが可能となる環状道路等の道路網の構築が必要となります。そのため、リニア開業後の交通需要を踏まえ、円滑な交通処理が可能となる各種道路整備について、関係機関へ働きかけを進めるとともに、市道整備の検討を進めます。

2) 沿道利用型道路整備

リニア岐阜県駅への交通利便性の高い市道長島奥戸線の整備については、市内外の様々な利用が想定されることから、新たなシンボルとなる沿道景観を演出できるように沿道店舗との連携・協力により整備について検討を進めます。

6-2. 市内アクセスに関すること

(P88)

2) 沿道利用型道路整備

リニア岐阜県駅への交通利便性の高い市道長島奥戸線の整備については、新たなシンボルとなる沿道景観を演出できるように整備を検討。



6-3. まちづくりに必要な基盤整備について

方針1：リニア効果が市内全域に及ぶための基盤整備を行います

(P90)

1) リニア事業の推進と地域の課題を解決する基盤の整備

リニア開業に向け、リニア岐阜県駅までのアクセス道路やリニア軌道の整備が進められることから、これらの整備に関連する地域については、交通施設や住宅基盤整備等の地域課題と併せた効率的な整備を進めます。

併せて、市街地の南部で計画が進む正家第2土地区画整理事業のほか、恵那駅北側広場や市街地を中心とした環状道路についても検討を進めます。

また、リニア事業の推進に向け必要となる工事用道路については、工事車両による交通影響や工事完了後の有効利用を見据え、その整備について関係機関との十分な協議を行います。

2) 観光に資する基盤の整備

恵那IC周辺の渋滞緩和のための対策や、恵那峡をはじめとする市内の観光地へのアクセスのため、恵那峡サービスエリアへのスマートインターチェンジの設置について検討を進めます。

また、リニア岐阜県駅から市内の観光地までの円滑な移動手段を提供するため、リニア岐阜県駅までの直通バス運行や明知鉄道の延伸を検討するなどの新たな観光に資する基盤の整備を検討します。

恵那らしい道（シンボルプロジェクト）

（P98）

※沿道の修景整備を検討する道路の位置関係に関する記述を変更

中津川市からリニア岐阜県駅を結び恵那峡に至る道路は、恵那市の新たな玄関口としての役割を担うこととなります。沿道には恵那ならではの店舗が並び、華やかな街路樹は季節の彩りを添え、来訪者が思わず車を止め、恵那の風土や魅力を味わいたくなるような道は、新たな恵那らしい道の1つと考えます。

■来訪者をもてなす将来の沿道景観整備イメージ



2. 主要な具体施策

恵那にしかない観光の推進

■歴史観光の推進

歴史（中山道等）を生かした観光の推進

■観光ガイドの育成と支援

観光ガイドやボランティアガイドなど

■観光情報発信施設の整備

観光や物産情報の発信施設の検討

■観光鉄道施設の整備・活用

S Lの復活やDMVの検討

■ツーリズムの推進

スローツーリズムなどの新たな観光の検討

■地域が連携した広域的なイベントの充実

中津川市や東濃各市、豊田市等との連携による
一体的なイベントの開催の検討

■農業体験の推進

施設整備や恵那版グリーンツーリズムの検討



恵那らしい食の推進

■ローカルフードの再発見とPR

ローカルフードを調査・研究・再発見、PR

■新商品の開発支援とPR

新商品の開発や食の復活などの支援について検討

■和洋菓子と観光の連携による情報発信

お菓子祭りのイベント開催などについて検討

■恵那の食文化、歴史の活用

地域で昔から食されている料理を食文化として
調査研究・PR

■食の伝承と体験の推進

伝統料理などの食の伝承に関する支援や料理体験・料理教室などを推進

冬の食

春の食

四季を感じられる

恵那の食

秋の食

夏の食



栗きんとん



五平餅



へボ料理

■恵那らしい食

恵那らしい暮らしの推進

■移住支援施設の整備

田舎暮らしを体験できるモデルハウスの整備検討

■移住支援

移住支援策を引き続き実施し、制度の延長や拡大等を検討

■宅地の供給

住宅地開発の適地調査の実施、土地区画整理事業等の検討

■農業のある暮らしの推進

宿泊施設やクラインガルテンの整備及び情報発信の強化



【茅の宿とみだ】



【武並町 サニーハイツ花の木】



恵那らしいお店の推進

■歴史、文化と景観に配慮したまちなみの整備

中山道を感じられるまちなみ景観の整備について検討



■恵那峡SA

■恵那峡SAと併設したハイウェイオアシス

恵那峡SAと併設したハイウェイオアシスの整備に向けた調査、検討

■リニア需要への対応

リニア岐阜県駅等での施設整備について、地域の情報や食に触れられる近隣市町や関係機関と協議・調整



■ハイウェイオアシスのイメージ

恵那らしい農業の推進

■農業のある暮らしの推進

宿泊施設やクラインガルテンの整備及び情報発信の強化



■越沢コテージ

■農村景観の保全

農村風景の保全に向けて耕作放棄地の解消などの取組みの推進、PRの検討



農村景観日本一



坂折棚田

■体験できる優良な農地

■農産物のブランド化の推進

生産、加工、販売を含めた6次産業化の推進に向けたモデル事業の検討



■恵那らしい作物

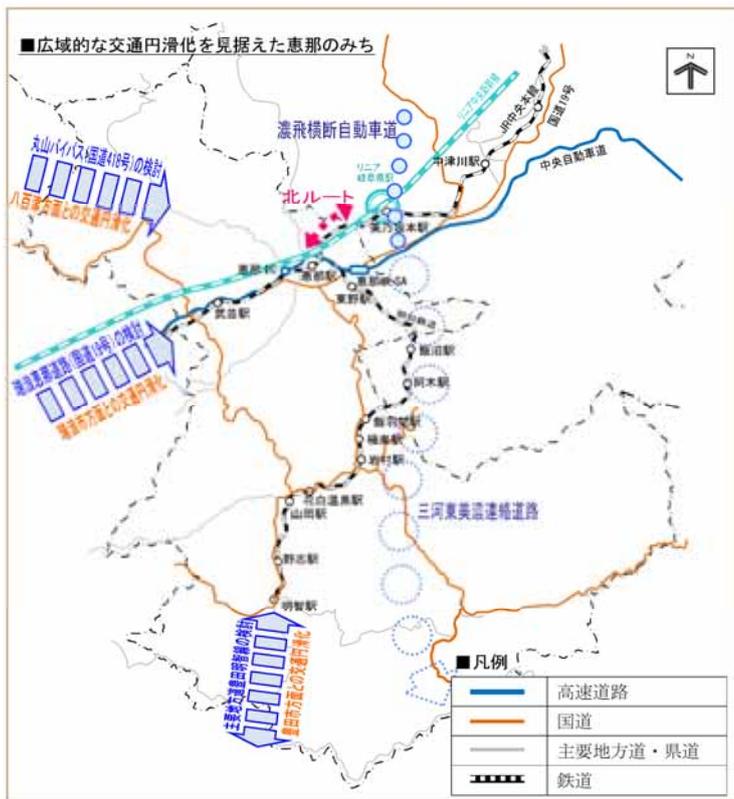
恵那らしい道(広域アクセス)の推進

■広域交通網の形成

- ・ 国道19号瑞浪恵那道路、国道418号丸山バイパスの早期整備の要望
- ・ 国道363号、主要地方道豊田明智線については改良の要望

■道路・鉄道・バス等の連携による広域交通手段の充実

- ・ JR中央線や明知鉄道、路線バス、高速バス等の公共交通機関について、連携強化



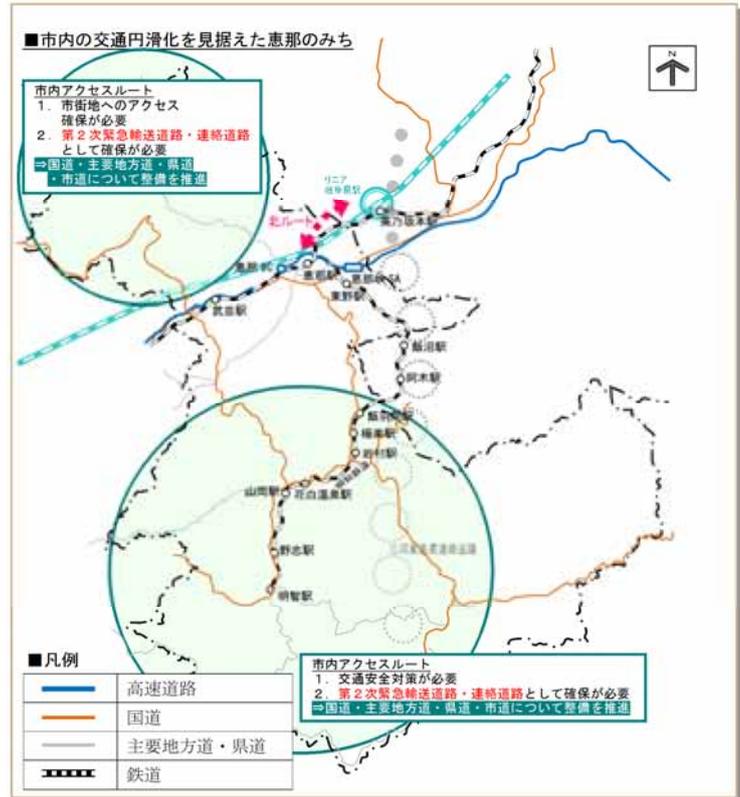
恵那らしい道(市内アクセス)の推進

■主要道路の整備促進

- ・ 恵那IC周辺や国道19号正家交差点周辺における交通集中の改善に向け、必要となる道路整備について、関係機関へ働きかけを進めるとともに、市道整備を検討

■南北地域からのアクセス強化

- ・ 南北地域から市街地へ向かう主要な道路は、災害時における多重性を確保するため、土砂崩れ等の被災が懸念される箇所等について、迂回路の確保を検討



まちづくりに必要な基盤整備の推進

■リニア事業の推進と地域の課題を解決する基盤の整備

- ・ リニア岐阜県駅までのアクセス道路等に関連する地域については、交通施設や住宅基盤整備等の地域課題と併せた効率的な整備を進めます。
- ・ 正家第2土地区画整理事業のほか、恵那駅北側広場や市街地を中心とした環状道路についても検討を進めます。

■観光に資する基盤の整備

恵那峡サービスエリアへのスマートインターチェンジの設置について検討を進めます。また、岐阜県駅までの直通バス運行や明知鉄道の延伸を検討するなどの新たな観光に資する基盤の整備を検討します。



まちづくりに必要な基盤整備の推進

■観光鉄道施設の整備

S L の復活やDMVの運行に向け検討を進めます。

■歴史文化に配慮した景観整備

中山道の魅力向上に資する整備を協議しながら検討します。

■歴史や文化を活かす道路整備

歴史や文化を活かした道路整備について検討を進めます。



【中山道】